

## 人生の「楽しい」を 見つける教室に

アイニティ英語教室

代表講師 平田好美 さん

住所：大川市向島32412  
TEL：090-663217453  
E-mail：inityeigo@gmail.com  
HP：https://inity-english.com/

今月の夢追い人はアイニティ英語教室の平田好美さんにお話を伺いました。アイニティ英語教室は、2007年に開業され、現在17年目になるとのことです。

「アイニティ英語教室は、幼児に対する英語から大学受験対策までの英語教育を行っている専門教室です。現在は、幼児を対象にした3歳〜6歳クラス、小学生を対象にした小学生クラス、中学生や高校生を対象にした中学・高校生クラス、また、社会人のコースも準備しています。基本は、少人数で、楽しく学んでもらうような教室を心掛けています。また教室以外にも、幼稚園や保育園へ出向いて、直接、英語の授業を行うこととして

いますね」

では、アイニティ英語教室で心掛けられている「楽しく学んでもらうような教室」とはどういったものでしょうか。「現在の小学生のコースでは、英会話だけではなく、日常の何かと組み合わせで英語を学んでもらえるようにしています。例えば、料理を作る工程の中で材料や道具の名称をどのように使うのか。また、旅の行程で何の乗り物に乗って、どのようにして目的地まで行くのかを体験や想像しながら楽しく学ぶことで、英語で話せるような能力をつけることを目的としています。小学校が英語必修化になり、小さい頃から英語に触れる機会が増

えてきました。また、英語と一言で言っても、書く（ライティング）、聞く（リスニング）、話す（スピーキング）、読む（リーディング）の能力、いわゆる、4技能と呼ばれるそれぞれの能力が必要になります。もちろん、教材を使って学んでいくことも大事なことのひとつですし、それぞれの能力が向上するように、楽しく英語に触れ、体験型の授業をすることで学びやすい環境を作っています。特に英会話では、自分の考えや思うことを伝えることが大事だと思います。特に日本人は感情表現が苦手だと言われていますし、私もそう感じています。生徒でも最初は恥ずかしくて、どっちつかずの反応をとって



LINE 公式アカウント



友達登録はこちらから



オンライン授業の様子

しまいがちですが、YESなのか、NOなのか、それとも「わからない」のか、その反応をはっきり表現することが大事なポイントで、そこから学ぶ必要があります。聞く(リスニング)、話す(スピーキング)をより学ぶために、週に何度かは、ネイティブスピーカーの講師とのオンライン授業も行っていきます。日本人(日本語話者)の講師だけ



英語の教材

の授業では、生徒たちが日本語に頼ってしまう部分が出てきてしまいます。より実践的な生きた英語力を身に付けることが、アイニティ英語教室の強みだと思います」

では、平田さんが英語に興味を持ったきっかけはなんだったのでしょうか。「いま思えば、私は小さい頃から英語に関わるが多かったです。私自身一人っ子で、いとこのお兄さんと遊ぶことが多かったんですよね。そのお兄さん達の聞く音楽がアメリカのロック

だったり、見る映画も洋画だったり、いかにも欧米のカラフルな飴やチョコレートが好きだったりとお兄さんたちの影響もあつてか、興味が

段々と海外に向けて行き、英語が身近な存在になっていました。その事がきっかけで高校・大学と英語科に進んで英語を勉強して、高校生の頃には英語が話せるようになっていました。高校時代には体調が芳しくない中、オーストラリアへのホームステイを強行したなんてこともあります。オーストラリアに着いてすぐ病院に直行し、ホストファミリーに会う前に入院、手術となり、奇しくも初めての全身麻酔はホームステイ中の海外で経験して、ホームステイ期間の半分は病院で過ごすことになりました。でも入院中もホストファミリーであるお母さんと通うはずだった学校の先生が毎日お見舞いに来てくれて淋しくはなかったんです。退院してホストファミリーと生活をしていく中でも、街の人が私のことを教会で祈ってくれていたりと、みんなが有名人を見かけた時のように声を掛けてくれましたね。そんな毎日だったので楽しかったし、

20年以上経った今でもそのホストファミリーとは仲良くさせてもらっています」

対面式の教室のため、昨今のコロナでの影響は大きかったとお話された平田さん。「教室が思うようにできず、一つの場所に集まることが出来なくなった中で、どうやって教室を行っていくのかを商工会議所に相談したのが経営革新などに取り組むことになったきっかけです。相談に行くとき親身に考えてくださって、補助金を活用して、トイレの改修や洗面台や空気清浄機の設置やホームページの開設など、環境を整えながら、教室が再開できるようにになりました。きっと私だけでは、申請書を作ったり、その後のフォローがなければできませんでした。そのおかげで、生徒はもちろん、保護者の方にも生徒を安心して預けることができる」と好評です。また、申請書を作っていく上で、私自身も改めて事業と向き合う事ができたことがよかったですね」

生徒たちには英語を通して「楽しく学んでもらいたい

と話された平田さん。そんな平田さんの夢をお伺いしました。

「新型コロナウイルスが大きく社会状況を変えてしまいました。しかし、今はオンラインで世界中の人と繋がる事が出来るし、遠くにいる生徒とも繋がることが当たり前になりました。今でも私の教室を受けた遠くにいる生徒にオンラインで授業を行うこともあります。いつか生徒たちが英語を使って活躍してくれることが一番嬉しいことです。現に、私のように英語教室をしている卒業生もいます。でも、生徒たちの目標はそれぞれ違いますし、受験のための勉強をしているにすぎないかもしれません。ただ、英語を話すことができるという事は、今後その人の強みになると思います。生徒たちには、あまり英語を話すきっかけがない日本で、英語を学び、世界の文化にも触れて、楽しいと思ってくれたみたいに、広い視野を持って自分自身の人生に活かして欲しいですね。英語を使う使わないは別にして、楽しいと思える何かを見つけれれる手助けが教室を通して出来たらより嬉しいですね」